

学校保健 知得情報

千葉県教育庁教育振興部
学校安全保健課 保健班
平成25年2月 発行

vol. 11



食物アレルギーについて正しく理解し、 組織的な対応に心がけましょう

食物アレルギー等を有する児童生徒等に対しては、校内において校長、学級担任、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、学校医等による指導体制を整備し、保護者や主治医との連携を図りつつ、可能な限り、個々の児童生徒等の状況に応じた対応に努めましょう。

食物アレルギーは、食物を摂取した時に免疫機序（アレルギー）を介して不利益な症状（じんましんや湿しんといった皮膚症状や、下痢や嘔吐、腹痛などの消化器症状、咳や呼吸困難等の呼吸器症状、口・のどの粘膜のはれや鼻水などの症状、目のはれ、かゆみ、アナフィラキシー反応等）がでる場合と定義されています。

乳幼児から幼児期にかけては、食物アレルギーの主要な原因として鶏卵と牛乳がその半数以上を占めています。青年期になるにつれて甲殻類が原因の事例が増え、成人期以降では、甲殻類、小麦、果物、魚介類といったものが主要なアレルギーの原因食品となります。食品によっては、アナフィラキシーショックを発生して命にかかわることもあります。

アナフィラキシー症状出現時の対応は・・・

嘔吐、息が苦しい、ぐったりとしている、意識もうろう失禁などの症状



背負ったり、座らせたりした姿勢で動かすことはしない

- その場で体を横たえ、脚を少し高くします。
- 嘔吐がある場合は、顔を横に向けて窒息しないようにします。

エピペンは打ったリスクより、打たないリスクの方が大きい

- エピペンを注射する。（医師の診断により、処方されたもの）
エピペンは、意識低下・血圧低下が現れるアナフィラキシーショック症状の時に直ちに使用し、医療機関で治療を受けるまでの補助治療剤です。
- 呼吸困難、意識障害、血圧低下があれば迷わず119番通報！
安静を保ち、1秒でも早く医療機関（可能であれば専門医）を受診することが最も有効な対処法です。
- 心肺停止になれば速やかに心肺蘇生を！



緊急の場合には、衣服の上からでも注射できます。

すべての児童生徒に「みんなで食べる喜び」「安心しておいしい食事」「自然の恩恵や『食』に関わる人々への感謝の念」を

【参考】○「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（財団法人 日本学校保健会）

この「知得情報」は校内で印刷し、教職員に配布するか、回覧をお願いします。

